

# かぼちゃ栽培技術情報 No 4

平成30年6月14日

組 合 員 各 位

J A 営 農 支 援 課  
特産かぼちゃ生産組合

## 今後の管理について

今年は大雨の影響で生育にばらつきがあるものの、5月末からの好天によって生育は回復傾向にあります。樹勢を見て追肥を行うなどの対策に努めてください。また、ハウス栽培の方は蔓呆け防止のため、定植後15日程度でハウスの屋根ビニールを剥してください。

### 1. 整枝・交配・追肥

#### ○整枝

- ・株元の雄花を摘除しないように注意する。
- ・親づる1本仕立てとし、株元から一番果の着果節位までの子づるは全て取り除く。
- ・1番果着果節位以降、子づるは放任する。子づるが気になる場合は取り除いてもいいが、果実の日焼けに注意する。
- ・1番果は株元に近すぎると、奇形果になる恐れがあるので着果節の葉が直径30cm以上、又は11節以降へ着果させる。
- ・くり大將は着果数が多くても、肥効が維持されて(葉色が保たれて)いれば、摘果する必要がないことから、樹勢が弱い場合は追肥を行う。

#### ○交配

- ・養蜂箱を設置していない方は、設置する。
- ・交配はミツバチと共に、人工交配で行う。
- ・ホルモン剤での交配は絶対に行わないこと。
- ・6月上旬の早い着果(※1)の場合、低温によりミツバチの動きが鈍くなることとマメ科植物への優先飛来により交配が確実ではないため、1番果については人工交配を実施し、確実に着果させる。
- ・人工交配を行う際は、花粉活性の良い早朝(午前10時位まで)に行う(10~12℃が適温)。
- ・ミツバチでの交配は養蜂箱を設置し、取扱注意事項をよく読み使用すること。



人工交配は絵の具の筆を使うと簡単。  
筆は自分の使いやすい大きさの物を使用する。

(※1)着果は雌花が咲いた日と考える。

(養蜂箱の設置申込みはJA営農支援課まで)

- ・着果後、果実がりんご程度の大きさになったら果実の下に皿(トスコFマット等)を敷く。皿を敷くことで、地面に接している果実の色が変わることがなく、泥・傷が着きにくい、きれいな外皮のかぼちゃができる。ただし、白い皿の場合はかぼちゃの外皮が黄色くなり、品質が低下する可能性があるためできるだけ使用しないこと。皿敷きは雨が降る前に行う。

○追肥施肥

- ・追肥は樹勢を見て適宜行う。
- ・特に着果後は樹勢が落ちやすく、うどんこ病にかかりやすい。
- ・果実の肥大を促すため、果実がりんご程度の大きさになったら追肥を行う。
- ・一発肥料である「BBかぼちゃ一発」を使用した場合は追肥の様子を見る。
- ・追肥はミツバチが動かなくなった夕方から行う。
- ・一発肥料を施肥していない場合は着果する前につる先に LP 苦土安 1 号 70 日タイプを施肥・耕起しておく効果的である。

施肥方法	肥料名	使用量/10a	N 成分量/10a	備考
土壌灌注	尿素	5kg	2.3kg	灌注時間 3～5 秒
施肥(雨天時)	尿素	5kg	2.3kg	晴天時の散布は葉に肥料ヤケが生じる(マルチ際に施肥)
葉上	尿素 50 倍液	2kg	0.9kg	水 100ℓに尿素 2kg を混ぜて、葉上より散布する
つる先	LP 苦土安 1 号	20kg	3kg	技術情報 No2 の施肥体系で②、④の場合

## 2. 病虫害防除

交配期以降は着果、肥大により草勢が弱まることや、梅雨時期等の影響から病害の発生率が高まるため、降雨の合間を見て、薬剤散布を実施する。

・アブラムシ対策

定期的に薬剤散布を行う。薬剤選択に際しては、ミツバチへの影響を考慮し、下記の薬剤にて防除する。

薬剤名	成分	使用量 (10a 当)	使用時期	本剤使用 回数	成分使用 回数	蜂への 影響日数
モスピラン 顆粒水溶剤	アセタミプリド	2000～ 4000 倍	収穫前日	2 回	2 回	1 日
マブリック 水和剤	フルバリネート	4000 倍	収穫 21 日前	2 回	2 回	1 日
マラソン 乳剤	マラソン	2000～ 3000 倍	収穫前日	5 回	5 回	7～10 日

※モスピラン顆粒水溶剤とマブリック水和剤は資材課で購入の際、印鑑が必要となります。

・病気対策

病気による被害予防のために、定期的に薬剤散布を行う。

農薬名	対象病害	希釈倍数 (倍)	10a 当り散布 液量及び薬量 (ℓ・kg)	使用時期	使用回数	成分系
ジマンダイセン 水和剤	べと病、 つる枯病、 炭疽病、疫病	600	100～300	収穫 21 日前 まで	2 回以内	有機硫黄系
スミレックス 水和剤	菌核病	1000～ 2000	100～300	収穫 14 日前 まで	3 回以内	カルボキサミ ド系
ダコニール 1000	べと病、 白斑病、 うどんこ病	1000	100～300	収穫 7 日前 まで	3 回以内	有機塩素系
※リドミル銅 水和剤	疫病	800	100～300	収穫 14 日前 まで	3 回以内	無機銅系
ポリバリン 水和剤	うどんこ病	1000～ 2000	100～300	収穫 7 日前 まで	3 回以内	グアニジン系

※基本的に銅剤は他の農薬とは混用できません。